

平成20年度 傾斜的研究費（全学分）研究報告書

研究代表者 所属	情報アーキテクチャ専攻	フリガナ 研究代表者氏名	トザワヨシオ 戸沢 義夫	職	教授
研究分担者所 属	情報アーキテクチャ専攻	研究分担者氏名	成田 雅彦	職	教授
	情報アーキテクチャ専攻		土屋 陽介		助教

研究課題名	グローバルな教育システムに関する研究
研究実績の概要（600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。）	<p>【背景】日本のIT企業の開発活動はグローバル化しており、一般の技術者も開発等、グローバルな業務に直面する場面が広がりつつある。従って、本番の業務でなく実際に体験・訓練したいという要求が強い。これは、本学1年生での希望調査の結果1/5が希望していたことから裏付けられる。</p> <p>【目的】上記の背景に専門職大学院としてのグローバル化のあり方とPBL手法を用いたグローバルな教育の手法の検証を行った。</p> <p>【研究のプロセスと結果】初めに、日本企業のオフショア発注に関連の深い、アジア、東欧について関係者ヒアリング・JEITAとの協力した現地調査し、グローバル化の要件・協力先候補地の動向を調査し、候補としてベトナム国家大学（VNU: Vietnam National University College of Technology）を選択した。その後、VNUとPBL（Project Based Learning）手法を用いて両校の学生による共同プロジェクトを行うことにより、グローバル教育の実施の可能性を検証した。この検証は、本学学生とVNU学生それぞれ数名のチームがテレビ会議により1か月弱の期間、小規模なプログラムの評価を行うというもので、コミュニケーションと意思決定が可能を検証するものである。結果、このPBLについて学生の興味も高く大学、VNUの教員の十分なサポートのもとで、プログラム理解・評価項目の設定・評価結果の検討が実施が可能であり、学習効果も高いことが実証できた。</p> <p>【今後】本研究の成果を踏まえ、VNUとのグローバルPBLを実際の演習科目とすべく協議・試行を進め、本学の特徴ある教育プログラム開発をめざしていく。</p>

平成20年度 傾斜的研究費（全学分）研究報告書

学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）					
グローバルPBLの取り組みに関して、情報処理学会SSS2009、FIT2009発表を予定している					
論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）					
グローバルPBLの取り組みに関して、産業技術大学院大学紀要での論文発表を予定している 東欧圏の調査については、“情報システム技術国際調査～中欧～”、情報システム技術委員会、電子情報技術産業協会、2008/10 として報告書を作成した。					
科学研究費補助金への応募状況、採択状況					
特になし					
国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況					
特になし					
その他社会貢献 [公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]					
今回の研究を通じて、ベトナムの大学との国際交流、ベトナムへのPBL教育方法の普及による国際的な貢献を行った。さらに、今回の研究成果を踏まえて、ベトナムのCollege of Technology, Vietnam National University, Hanoi (VNU)とGlobal PBLに関してMOU(Memorandum of Understanding)を締結する方向で進めており、継続的な国際交流に発展させていく。					
研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況					
工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類・番号	出願年月日	取得年月日